令和7年度第1回 旭川市廃棄物処分場対策協議会 会議録

日 時	令和7年7月1日(火) 15:50 ~ 16:10
場 所	旭川市近文清掃工場 大会議室
出席者	<p>○ 旭川市廃棄物処分場環境対策協議会 委員11人(定数11人)</p> <p>・松藤 敏彦 ・吉田 英樹 ・小寺 史浩 ・北邑 英治 ・大西 敏秀 ・有木祥次 ・橋本祐一 ・桑島 徳見 ・山下 三千世 ・小久保 志津子 ・新田 晃</p> <p>○ 事務局7人 ・太田環境部長 ・尾藤廃棄物処理課長 ・齋藤旭川市廃棄物処分場所長 ・藤同主査 ・増田同主査 ・工藤同主任 ・倉田係員</p>
公開・非公開	公開
傍聴者数	なし
報道機関	なし
調査検討事項及び資料等	<p>1 令和7年度定例会議及び調査検討計画について (資料1)</p> <p>2 令和6年度環境調査の結果について (資料2)</p> <p>3 監視機関委員の視察について (資料4)</p> <p>4 勉強会について (資料5)</p> <p>5 その他</p>

項目	担当	発言要旨
開会 (日程説明)	司会 (事務局)	ただいまから、令和7年度第1回 旭川市廃棄物処分場環境対策協議会 会議を開催する。 本日の調査検討事項は 1 令和7年度定例会議及び調査検討計画について 2 令和6年度環境調査の結果について 3 監視機関委員の視察について 4 勉強会について 5 その他 となっている。以降は、会長に議事の進行をお願いする。
出席数		出席委員：11人中11人で定足数に達している。
	会長	会議録確認(前回は合同会議で共通)、調査検討事項1～4までは、先ほどの中園廃棄物最終処分場監視委員会と同じであるため、次のその他に進む。
	事務局	報告事項が一点。 今年は雪解けが一気に進み、一時的に浸出水量が増加した。それに加えて、膜処理設備の膜が詰まり気味で処理量も低下していた。 そのため、調整池の貯水量が増加して「融雪期等における旭川市廃棄物処分場浸出水処理対応基準」に定める水位を超えたため、同基準に基づき4月29日から5月8日までの間、埋立地から調整池への浸出水流入を停止。調整池手前の吸水人孔から埋立地に設置した仮調整池へのポンプ圧送を行った。 現在は浸出水も落ち着き通常運転で維持管理している。また、詰まり気味であった膜は6月中に取替工事を完了している。
	会長	中園処分場とは異なり、現処分場は自主基準値が継続している。 膜処理は、自主基準値で定めたSSやCODの基準を満たすための処理である。
	副会長 (監視委員会)	膜が詰まるのは、凝集沈殿後のSSが高いためか。
	事務局	経年による劣化である。定期的に洗浄を行っているが、年数の経過で効果が短縮。短期間で詰まるようになっていた。
	副会長 (監視委員会)	膜の交換費用はいくらか。
	事務局	2系統(1系・2系)のうち今回は2系の膜を交換した。費用は2千万円程度である。
	副会長 (監視委員会)	1系の状況はどうか。
	事務局	現時点ではまだ保っているが、2系の状況を踏まえて更新を検討している。
	副会長 (監視委員会)	更新か膜処理停止かの選択か。
	会長	基準があるので停止はできないが、活性炭では難しいか。
	事務局	活性炭も経年劣化するので、更新が必要になる。
	副会長 (監視委員会)	膜処理がなければ本当に処理できないのか。基準超過はCODのみで、SSは問題ないのか。

調査検討事項		
5(その他)	事務局	SSも自主基準値が10mg/lなので、膜処理がなければ超過する。
	副会長 (監視委員会)	SSの自主基準値10mg/lという値だが、中園処分場が30～40年経過してやっとクリアできるレベルが20mg/l程度。10mg/lが基準では、ほぼ廃止はできない。
	会長	水処理のプロセスを確認したい。
	事務局	処理のプロセスは凝集沈殿→BOD酸化→脱窒→再ばっ気→膜処理→pH調整→放流となっている。また、膜によるCOD処理が不十分な場合は活性炭処理をする。
	会長	<p>一般の方には難しいので説明する。本来は、汚れを落とすプロセスと有機物を除去するプロセスがあれば充分だが、自主基準があるため、脱窒や膜処理、活性炭処理が必要ということ。</p> <p>SS10mg/lという基準について説明する。 SSは単なる汚れで、有害物でも有機物でもない。ダイオキシンの基準がなかった当時、SSとダイオキシンに関連があるとして、SS10mg/lという基準が設けられた。 ダイオキシンの基準ができた後も、そのまま自主基準として継続しているのが現状である。ちなみにSSの法定基準は60mg/lである。</p> <p>基準を厳しくする＝環境にやさしいという誤解があり、そのために様々な処理設備が導入されている。 1番の問題は、効果の検証がないことである。本当に必要なのか。どの程度の影響があるのか。効果に見合った費用なのか。そういった検証はほぼなされていない。 この会議の特徴は費用にまで議論が及ぶことで、その成果がこれまでの様々な経費削減という結果で表れている。 一方、どれだけ水がきれいになったかという議論に終始しているのが通常の会議である。 これまでの説明で、自主基準の見直しがいかに大切かということを理解されたと思う。</p>
	委員1	膜処理のみを停止すればどうなるのか。
	会長	先ほど環境調査の報告にあった原水(浸出水)の数値ほぼそのままとなる。原水自体それほど高い値ではないが、低い自主基準を設けているので各処理工程が必要になっている。
	副会長 (監視委員会)	凝集沈殿で使用している薬剤は塩化第二鉄だが、凝集沈殿でSSが上がることもあるのか。
	事務局	それよりも脱窒後の再ばっ気によって上がる。
	副会長 (監視委員会)	再ばっ気せずに沈殿させて、上澄水のみを流せば低い値になるのか。
	事務局	そのとおりである。
	副会長 (監視委員会)	この処分場は令和12年で埋立を終了する。あと数年しかない処分場に今回2千万円の改修を行い、今後もう1系統の改修で2千万円かかる。 上乘せ基準でしかないCODのために膜処理を行っているためだが、早い段階でその部分の検討ができればと思う。
	委員1	現時点での見直しは地元委員としては非常に難しいと考えている。
	会長	設置時に地域と約束していることであり、約束は非常に重い。

	副会長 (監視委員会)	完全に法定基準に戻すのではなく、SSのみ少し基準を上げるような協議も難しいか。
	委員 1	この会議でその議題を取り上げる前に、地元住民と話をしてどのような雰囲気かをみてみなければ、何とも言えない。 中園処分場における基準見直しの際、稼動中は現処分場の自主基準を継続することとした以上、現時点でその協議をすることは相当困難である。
	会 長	今回は中園処分場の廃止。廃止が決まったら現処分場に関する協議。と段階的に進めていくしかないと思う。
	委員 1	同感である。今回の中園処分場廃止をきっかけとして、将来に向けて少しずつ話し合いを続けていくしか方法はないと考える。
	会 長	自主基準を見直したのは日本でここしかない。非常にいい例を作ってきたので、なんとか努力をして、少しでも早く現処分場の見直しができればいいと思っている 本日の会議は以上で終了とする。
閉会	司会	以上で、令和7年度第1回 旭川市廃棄物処分場対策協議会を終了する。 本日はありがとうございました。